



あまいもの、 みつけた！



いちごばたけのちいさなおばあさん

中谷 千代子 え わたり むつこ さく 福音館書店 Eーナ

いちごばたけのつちのなかにすむちいさなおばあさんのしごとは、いちごのみにあかいいろをつけることです。あるとしのこと、ゆきのかわりにあめがふりつづきました。すると、いちごばたけはあおあおとしたはをひろげました。おばあさんは、あわてていちごのいろをつくりはじめます。

チョコレート工場の秘密



ロアルド・ダール 作 田村 隆一 訳 評論社 933ーダ

チャーリーは、チョコレートの大好きな少年です。家はとても貧乏で、誕生日に小さな板チョコしか食べられません。家の窓からは、世界で一ばん有名で大きなワんカのチョコレート工場が見えています。ある日、「五人のえらばれた子どもだけ工場の見学を許可することが発表されました。チャーリーは最後の一人にえらばれ、工場の見学へ行くことになります。

わがしやパンダ



香桃 もこ 作 福音館書店 913ーカ

はるとのうちは、わがしや「ささの葉堂」です。店のじまんは、ささの葉でつつんだわがしのさわやかなかおりです。うら山でささの葉をつんでいると黒っぽいかげがうごきました。それは、おいしいささや竹をさがして世界じゅうを旅しているパンダでした。はるとは、パンダを店へつれていきます。

小さなスプーンおばさん



アルフ＝プリヨイセン 作 大塚 勇三 訳 学研 949ープ

パンケーキにコケモモのジャムをつけたかったごていしゅのため、おばさんは森へコケモモの実をとりにきました。おばさんが、茶わんでコケモモをバケツへはこぶと、バケツはどんどん実でいっぱいになりました。あと茶わん一ぱいで、バケツがいっぱいというとき、おばさんのからだはティースプーンくらいに小さくなってしまいます。

(『おばさん、コケモモの実をとりに行く』)

ヘンゼルとグレーテル



バーナディット・ワッツ 絵 グリム 著 相良 守峯 訳 岩波書店 Eーウ

大きな森の入り口に、まずしい木こりが、おかみさんとふたりの子どもとすんでいました。男の子はヘンゼル、女の子はグレーテルといいました。あるとき、ふたりはおかみさんにふかい森へとつれていかれ、おきざりにされます。ふたりが朝からばんまで森をあるきまわると、おかしやパンでできている小さな家を見つけました。

まほうのマーマレード



茂市 久美子 作 あかね書房 913ーモ

悠一は、うら庭に夏みかんの木があるおばあさんの家へひっこしてきました。その家の台所でジャムのつくりかたが書かれたノートと、『まほうのマーマレード』とラベルのついたジャムのビンを見つけます。ジャム屋をはじめた悠一は、レシピどおりにマーマレードをつくると、町の店へもっていきました。ところが、何日たっても注文のれんらくはありません。

和菓子のほん



中山 圭子 文 福音館書店 596ーナ

「和菓子」は日本独特のお菓子です。食べておいしいだけではなく、日本ならではの色、名前、形があり、自然を美しいと感じる心や人びとの夢やねがいがこめられています。和菓子から日本を感じてみませんか。